

リサイクルに適した容器包装への取り組みが進む

◆PEやPPのモノマテリアル（単一素材）化でリサイクル性を向上

住友ベークライトは2020年12月、密度や分子量、構造などが異なるポリエチレン（PE）を積層したモノマテリアル（単一素材）の包装用フィルムを発表した。包装用フィルムは異なる素材を積層して機能性を高めていたが、プラスチックの資源循環としてマテリアルリサイクルするには複数種類の素材を分離するのが難しかった。今回のフィルムはナイロンや接着材を積層せず、外層・中間層・内層ともPEで、バリア性は劣るものの、リサイクル性が向上したと評価されている。

また、大日本印刷は20年9月に、アルミ箔を使わずに高いバリア性をもつポリプロピレン（PP）単一素材の「DNPモノマテリアル包材」が、ユニリーバの紅茶製品「リプトン」のパッケージに採用されたと発表している。ほかにも、凸版印刷は19年9月に透明蒸着バリアフィルムで、ポリエチレンテレフタレート（PET）にPE、PPも基材に加えたラインアップを実現している。三井化学も廃プラスチックのケミカルリサイクルやマテリアルリサイクルと並んで、包装材料のモノマテリアル化をプラスチックの資源循環の柱としている。

欧州ではAmcorが20年12月、PE単一素材の食肉用シュリンクバッグを発表し、ポリ塩化ビニリデン（PVDC）フリーでリサイクル可能と謳っている。

◆グローバル・ブランドはプラスチック容器包装のデザイン・ルールを発表

CGF（The Consumer Goods Forum）に参画するUnileverやWalmartなど36社は20年12月、プラスチック容器包装についてのデザイン・ルールを発表した。PETボトルのリサイクルを推進する一方で、PVC（ポリ塩化ビニル）／PVDCは塩素が含まれており、EPS（発泡スチロール）／PS（ポリスチレン）は分別するには少量過ぎ、リサイクルに不適として、容器包装から除外すべきとしている。

日本では、プラスチック容器包装の多くはサーマルリサイクル（熱回収）として有効利用され、PS製食品トレーは分別回収されてリサイクルも行われている。欧米と事情は異なるものの、日本でも21年にはプラスチック容器包装について環境配慮設計の指針づくりが始まる。その行方は要注目である。 【長谷川雅史】